

平成 元年 6月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 TEL0428-23-6859)

西国三十三ヶ所観音霊場写碑

しだれ桜で有名な梅岩寺の境内から秋葉神社に登る九十九折（つづらおり）の道を行くと、そのまがり角ごとに石碑が目につきます。この碑は神社を過ぎて更に続き、尾根を走る林間道路にも見られます。これは「西国三十三ヶ所観音霊場」を写したものです。

では、「西国三十三ヶ所観音霊場」とは何でしょうか。

観音菩薩という菩薩は、その身を三十三の身にひかえてひとびとを救済するという考え（観音三十三化身）があります。これは「観音経」というお経に説かれているものですが、これにもとずいて京都を中心に三十三の寺院が比定され、この寺々を巡拝して歩くという信仰がかなり古くから行われました。巡拝者はそれぞれ寺に巡拝したしるしに札を納めたので、この寺々を札所とも言います。これが「西国三十三ヶ所観音霊場」です。ほかに江戸（東京）を中心に「坂東三十三ヶ所観音霊場」がり、秩父には「秩父三十四ヶ所観音霊場」もあり、この三か所を併せた「百観音札所」の信仰もあります。

それではこの梅郷寺から秋葉神社の道にある「写し」とは何なのでしょう。

梅岩寺総門左側植え込みの一番高いところに、最上段に如意論観音像をいただく「西国第1番 那智山写」の碑があります。その碑に由来が記されています。

それによると、金剛寺の住職であった清水憲誉師が、三十三ヶ寺を巡礼し、それぞれの寺院からその土を持ち返ってこの地に移し、碑を建て、だれもが簡単に巡礼できるようにしたものだとして書いてあります。その際、町の篤志家の名を記してあるものもあります。この碑が建てられたのは明治41年のことです。明治41年といえば西暦では1908年で、日清戦争（1894）から14年後、日露戦争（1904）の4年後のことです。まだ戦争について色々語られていた頃だったのででしょうか。この両戦争で亡くなった人々や、死んだ牛馬の菩薩もともに弔いたいとも書かれています。

いまこの碑を調べてみると、23基ほど確認できます。

(文責 野村慎三郎)